

NEWSLETTER

THE JAPANESE SOCIETY FOR
PARAPSYCHOLOGY

JUNE 1978

No. 5

第11回大会準備について

既にお知らせしましたように、来月8月5(土)6(日)日の両日を11回大会を開催致します。会場は大阪駅近くの「阪急ターミナルビル」に決定しました。宿泊の予約も大会準備委員会で行います。6月下旬細部を決定、7月上旬プログラムをお送りする予定です。近く大会準備委員会より連絡が行はれます。充実した大会になりますよう、沢山の研究発表が行はれらることを期待しております。

なほ、大会に引続き8月7、8、9日と「夏期研修会」を神戸・有馬で開催します。会員以外の方の参加も歓迎します。超心理学に関心をお持ちの方をお誘い下す。

超心理学関係出版物

J. D. Morris, W. G. Roll and R. L. Morris ed: Research in Parapsychology 1976, The Scarecrow Press, Inc. London, 1977, pp 285.

本書は1976年8月18-21日、オランダ State University of Utrechtで開催した Parapsychological Association 第19回大会の発表論文の抄録である。内容: Research Briefs I~VIII, Papers I~VI, Symposia: Psi and Physico, Geller-Type Phenomena, New Concepts in RSPK Research, Addresses: M. Johnson: Problems, Challenges and Promises, Sir J. Eccles: The Human Person in Its Two-Way Relationship to the Brain.

大谷宗司: "宗教と超心理学", 宗教における行と儀礼, 催眠とホジアの VIII, 誠信書房 1978. 5. pp 199-215.

科学としての超心理学と人向求済の使命と宗教との関係について一般的に論じたもの。内容: 超心理学の立場、超常能力者の問題、変性意識と psi 能力、霊魂仮説の問題、宗教と超心理学との関係。

森尾重樹・黒田輝孝・江頭幸晴: "催眠と遠感覚明知覚(ESP)", 宗教における行と儀礼, 催眠とホジアの VIII, 誠信書房, 1978. 5. pp. 274-308

催眠による2倍される意識の状態と ESP の関係を史的に検討し、Rygel の ESP 能力訓練法を紹介、変性意識の問題と関連づけて考察を行ったもの。内容: 催眠による ESP 研究の展望、催眠による ESP 訓練の考察。

学会 ニュース

趙璣瑞氏の来日: 中華心理学会研究会理事趙璣瑞氏は去月5月18日来日、大谷氏に訪問と情報交換が行はれ、今後日華の両超心理学会が密に連絡を密にし活動を進めよう努力する事で意見の一致を見た。

東京・台北 ESP 遠距離実験: 5月12日より21日の10日間、東京側送信者大谷純世氏、台北側送信者夏鶴氏による実施、会場其他多数の人々が補験者として参加され無事終了した。東京・台北の両「目標」の交換が終了、近く整理に入る予定、定訳を併発表する予定です。

第124回月例研究会: 1978年5月28日(日) 1000~1600 大谷氏宅で開催、出席者6名、第11回大会の準備委員会及び杉谷氏より「Levyの動物実験」についての紹介があった。

お知らせ

第125回月例研究会: 下記要領で行います。

1978年6月24日(土) 午後2時~5時
借行社、東京都千代田区五番町12(電)263-0851
(国電市谷駅下車、出光ビルに徒歩5分)

Handbook 輪読

Parapsychological Models and Theories, by Rex Stanford 紹介者 金沢元基
文献紹介

The Human Person in Its Two-Way Relationship to the Brain, by Eccles 紹介者 大谷宗司
議題 第11回大会準備について。

NEWSLETTER 1978年6月8日発行 ©
編集・発行: 日本超心理学会

文献紹介

Levy, Jr. et al による mouse, jird, hamster を使った一連の予知実験
(Journal of Parapsychology Vol. 35~37, 1971~73)
と Levy の行った詐欺について

紹介者 杉谷 道男

1. Levy の実験

1971年から73年にかけて、Levy は mouse, jird, hamster 等の小ネズミ類を用いた一連の実験を Journal of Parapsychology に発表した。これらの実験の基となったのは1968年7月22日の Duval と Montredon によって行われた mouse を使った予知実験である。この実験自体、装置などが自動化し、実験者の介入を必要とせずともよく考察されたすぐれた実験であった(結果は有意)が、Levy は、更に装置の自動化を完全にし、また Duval によって実用化された Random Behavior Trial (RBT) (後述)の選択というデータの処理方法を発展させて用いている。

実験には低い仕切りによって区切られた2つの部屋を持つ箱(床には電撃用のグリッド、大きさは約6インチ立方)を用いる。動物はどちらかの部屋に入っており、ある時間後にどちらかの部屋に手を入れたら電撃を予知して、これを避けるために、電撃が来るかと思える部屋の方へ移動するとどこまでできるかが試される。

RBT とは、一試行の試行間隔の間に、動物が明らかで理由もないのに部屋の間を移動した場合、その直後の試行を行い、例えは、電撃に驚いて隣室へ逃げた場合などは RBT に含まれない。この RBT がデータ処理の主要な対象となる。また、従うは、動物がある試行でミスをして電撃を受けた場合、神経過敏となり、その結果、部屋の間をジャンプして移動すると多いことになり、このことには気がついた。このような場合には当然、動物の psi 能力を發揮するのはむづかしいと予想されたので、動物が電撃を受けた直後の試行と先行の試行、またジャンプ移動の回数が増えた後の試行と少ない試行の間では標準の比較を行っている。

実験結果は、ほとんどの場合、驚くほど有意である。特に全試行に於いてはほとんど有意であることも、RBT だけを選ばると極めて有意の結果が得られること、また RBT のうちでも、電撃を受けた後の試行

において、ジャンプ移動の回数が増えること、後の試行において、極めて高い有意性が得られること、またこれらの結果から、従うは mouse 系における予知能力の存在を結論づけている。

2. Levy の詐欺について

この間、全く残念なことには、ラットを用いた PK 実験において、Levy が詐欺を働いたことが1974年、彼の協同研究者達により明らかになった。Levy 自身もこのことを認め研究所を去った。Levy は、Institute for Parapsychology における Rhine の後継者と考えられていた人だったので Rhine 自身のレトリックも大きかったと思われた。Rhine は Levy の詐欺について、J. Parapsychol., Vol 39 に面白いコメントを書いている。

要旨を抜き書きすると、

- 1) Levy の詐欺は上述のラット PK 実験の1つに留まらず、もっと広範なものであったことがわかったこと。
- 2) 従うは50か少ないという結果に112の報告は77で信用できること(当然上述の mouse 系の予知実験も含まれる)
- 3) Levy の行った各種の実験をいろいろの人が追試してみたら、Levy の得たような有意な結果は、どの実験においても得られなかった。

Rhine 自身は、自分の監督不行届の責任を痛感し、今後、このようなことのないよう皆が協力して行くように指導する義務が自分にはあると書いている。

このような結果は非常に残念なことではあるが、私にとってもよい教訓として生かされたことは確かである。また、実験そのものについては、従うの行った自動化された実験方法及びデータ処理法などは、非常に参考にしていただけるものがある。(1974年12月例会研究会にて発表)